

大学自己評価部会だより

第23号 (平成23年9月)

■教育研究目標

九州歯科大学は、質の高い教養教育と専門教育を学生に提供し、患者さん中心の医療を実践できる人材を育成します。この基本的な理念の実現に向けて、以下のような教育・研究を行っています。

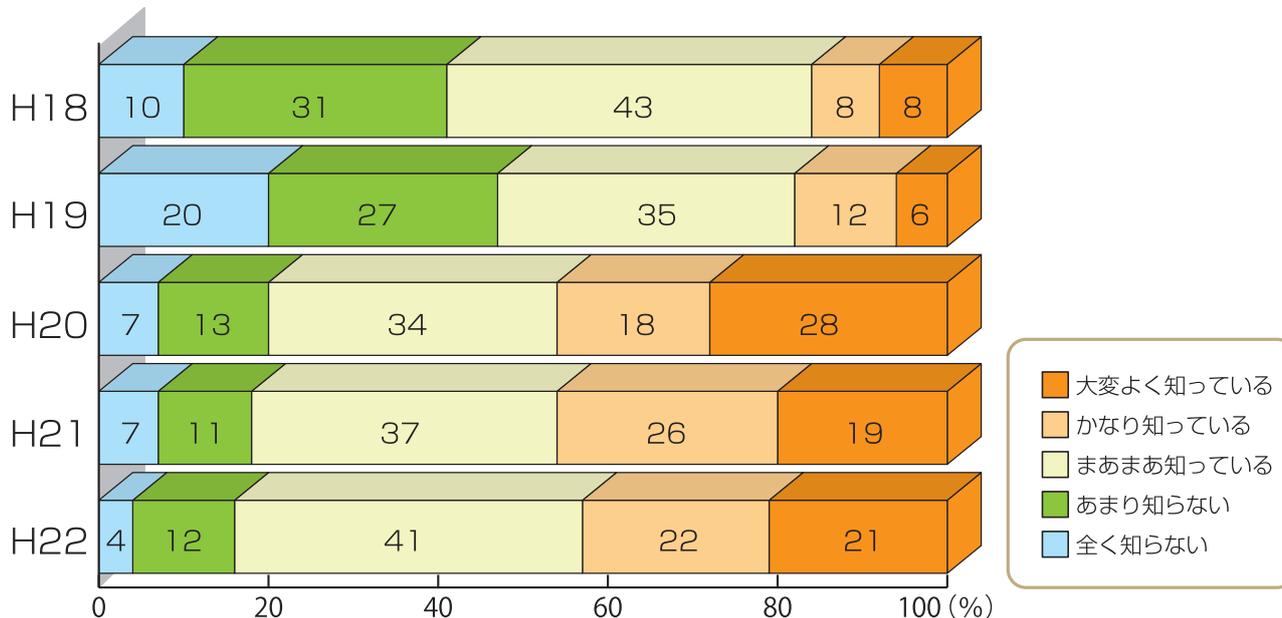
- (1) 新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的医療人を育成する。
- (2) 歯科保健医療を通じて社会に貢献する医療人を育成する。
- (3) 高度な専門性を有する歯科医療人を育成し、高度先進医療の拠点病院としての機能を強化する。
- (4) 歯科医学を支える研究を推進するとともに、地域社会と連携した研究を展開する。
- (5) 国際社会に貢献できる人材の育成と交換留学生の受け入れを促進し、アジア太平洋地域の歯科教育研究機関との連携を強化する。

アンケートの調査結果を報告します

学部学生を対象とした大学理念の周知度、講義、実習および大学教育への満足度を平成18～22年度の各年度で比較しました。

① 大学理念の周知度

平成20年度は平成19年度に比べ、(大変よく知っているおよびかなり知っているの割合)の大幅な増加が認められました。それにともない、(あまり知らないおよび全く知らないの割合)の大幅な減少も認められました。平成22年度は、21年度と比較して大きな変化はありませんでした。皆さん、さらなる大学理念の周知度向上を目指して頑張りましょう!!



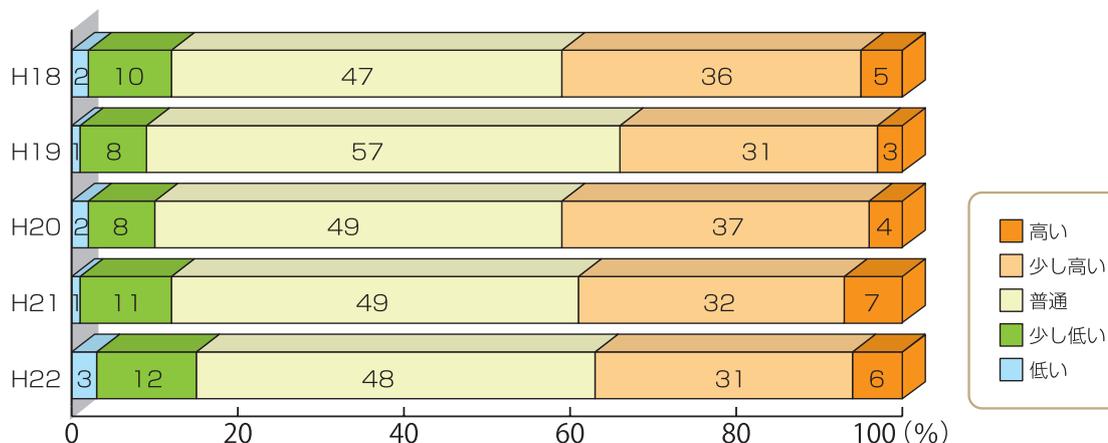


② 講義、実習の満足度

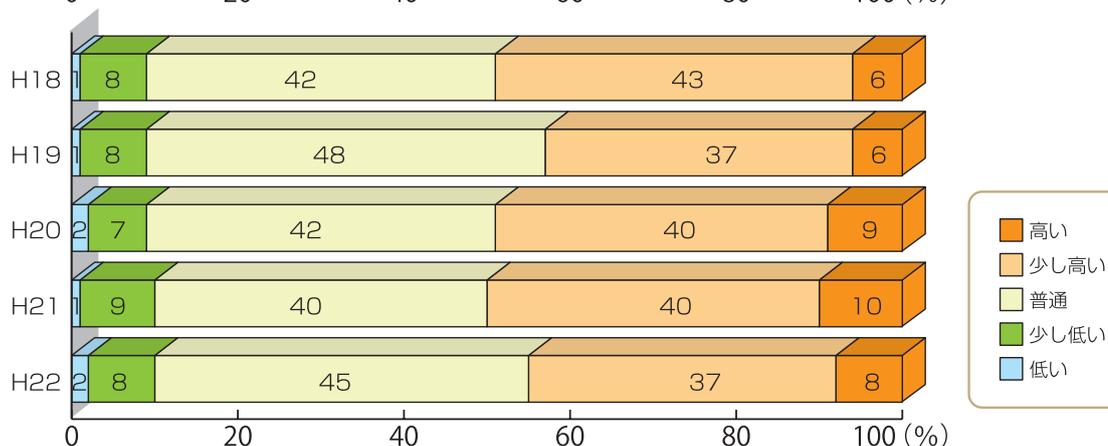
平成 22 年度は平成 21 年度に比べ、実習への満足度（高いおよび少し高いの割合）の減少が認められました。

今後は実習における満足度が上がるように教育改善の努力をしていかななくてはなりません。

講義の満足度



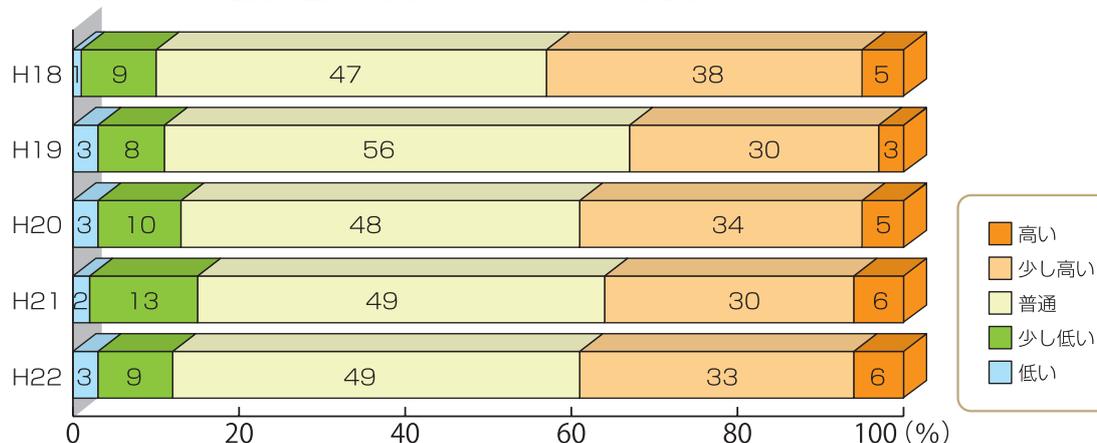
実習の満足度



③ 大学教育への満足度

平成 22 年度は平成 21 年度に比べ、大学教育への満足度（高いおよび少し高いの割合）の上昇が認められました。

今後はさらに大学教育の満足度が上がるように教育改善の努力をしていかななくてはなりません。



大学自己評価部会だより

第24号 (平成23年11月)

■教育研究目標

九州歯科大学は、質の高い教養教育と専門教育を学生に提供し、患者さん中心の医療を実践できる人材を育成します。この基本的な理念の実現に向けて、以下のような教育・研究を行っています。

- (1) 新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的医療人を育成する。
- (2) 歯科保健医療を通じて社会に貢献する医療人を育成する。
- (3) 高度な専門性を有する歯科医療人を育成し、高度先進医療の拠点病院としての機能を強化する。
- (4) 歯科医学を支える研究を推進するとともに、地域社会と連携した研究を展開する。
- (5) 国際社会に貢献できる人材の育成と交換留学生の受け入れを促進し、アジア太平洋地域の歯科教育研究機関との連携を強化する。

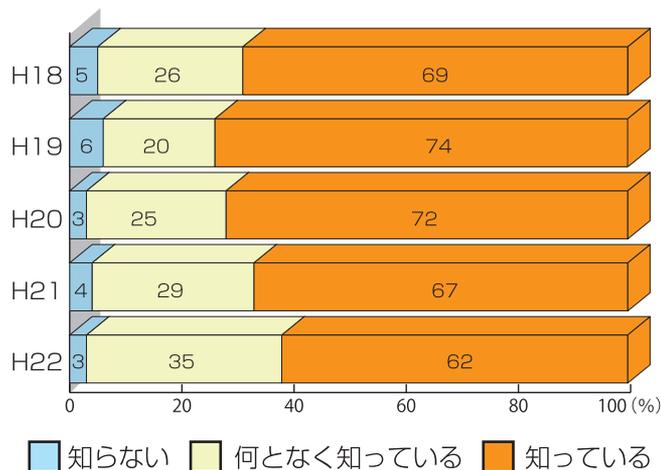
アンケートの調査結果を報告します

心身の健康に関する相談室の認知度、自主学習時間および学生のニーズの把握に関する状況について、平成18年度～平成22年度の5年間を比較しました。

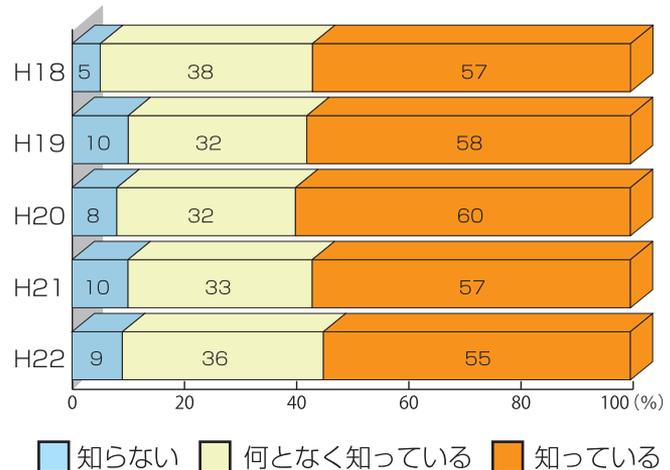
①健康に関する相談室の認知度

健康管理室とカウンセリング・ルームの認知度において、過去5年間大きな変化は認められませんが、常にカウンセリング・ルームの認知度が健康管理室より少しだけ低いようです。

本学に健康管理室があるのを知っていますか。



本学にカウンセリング・ルームがあるのを知っていますか。

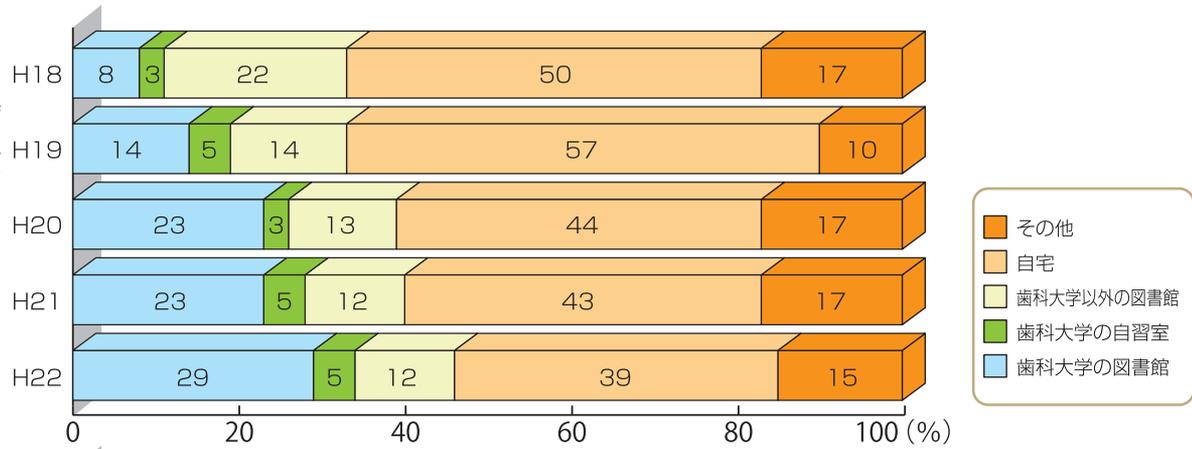




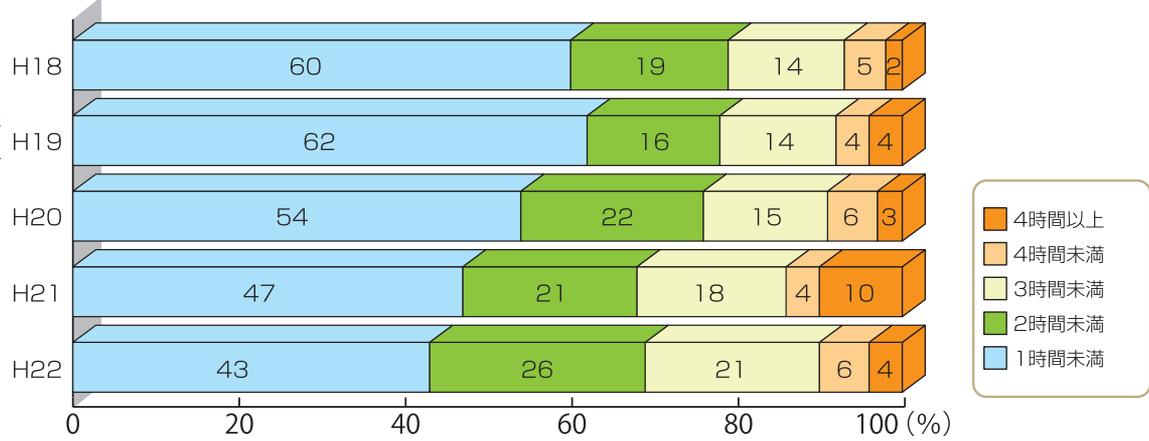
② 自主学習

本学の図書館の利用割合が次第に増加し、自宅学習者は減少傾向にあります。その一方で、本学の自習室の利用がのびません。学習時間は、1日に1時間未満の割合が減少傾向にあります。

土日・祝祭日など、大学が休みの時の自主学習は主にどこを利用しますか。



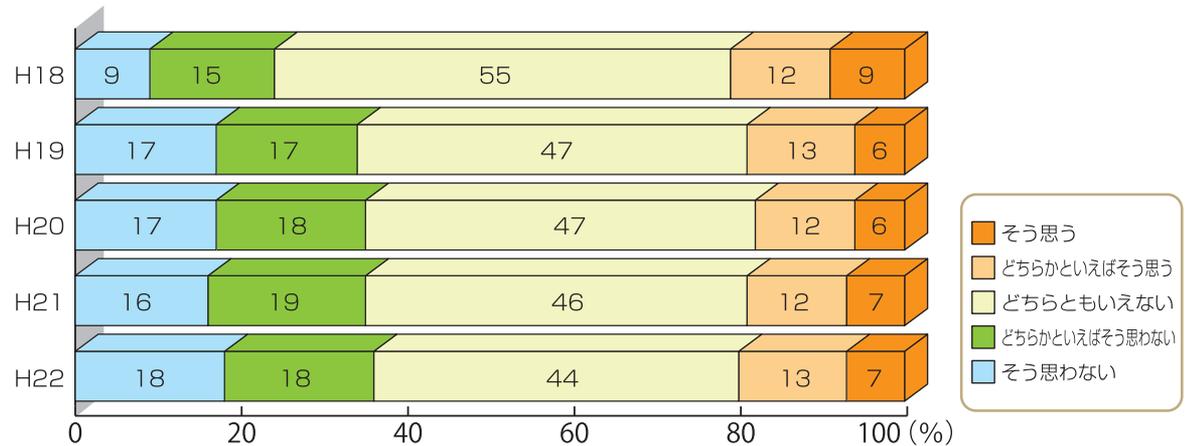
試験勉強を除くあなたの自主学習時間は、1日平均何時間ですか。



③ 学生のニーズの把握

平成19年度以降はほとんど変化が無く、約20%が「把握していると思う」で、約35%が「把握しているとは思っていない」となっています。

本学として、生活面での皆さんのニーズを適切に把握していると思いますか。



この「大学自己評価部会だより」にご意見の方は kyoumu@kyu-dent.ac.jp へお願いいたします。

大学自己評価部会だより

第25号 (平成24年1月)

■教育研究目標

九州歯科大学は、質の高い教養教育と専門教育を学生に提供し、患者さん中心の医療を実践できる人材を育成します。この基本的な理念の実現に向けて、以下のような教育・研究を行っています。

- (1) 新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的医療人を育成する。
- (2) 歯科保健医療を通じて社会に貢献する医療人を育成する。
- (3) 高度な専門性を有する歯科医療人を育成し、高度先進医療の拠点病院としての機能を強化する。
- (4) 歯科医学を支える研究を推進するとともに、地域社会と連携した研究を展開する。
- (5) 国際社会に貢献できる人材の育成と交換留学生の受け入れを促進し、アジア太平洋地域の歯科教育研究機関との連携を強化する。

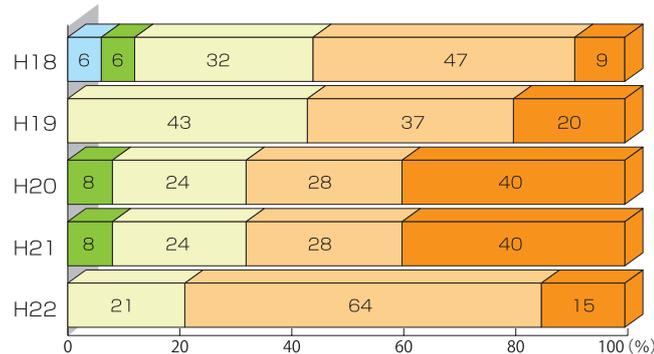
アンケートの調査結果を報告します

大学院生の履修科目についての満足度、履修の方法や制度の理解度および研究の実態などについて、平成18～22年度の5年間を比較しました。

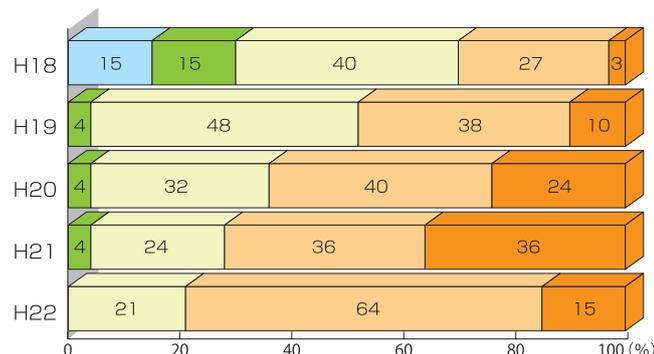
①主科目および副科目・選択科目に対する満足度

大学院では、平成19年度よりシラバスを作成し、講義・実習の充実を図ってきました。主科目、副科目・選択科目ともに満足度が高くなっているようです。

主科目に
対する満足度



副科目・選択科目に
対する満足度



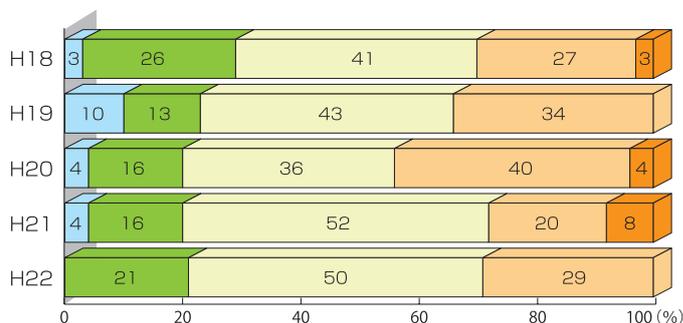
■ 高い
■ 少し高い
■ 普通
■ 少し低い
■ 低い



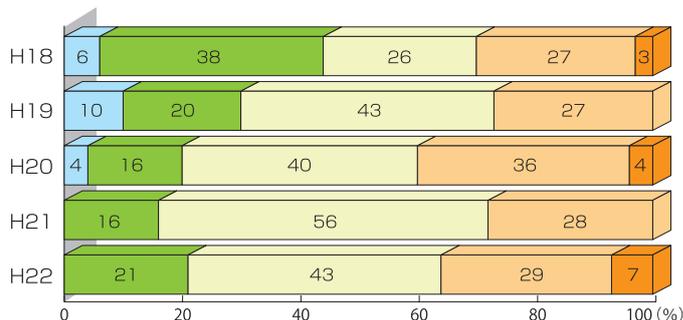
② 授業要綱や学習相談などについて

授業要綱(シラバス)の判り易さ、学習相談(研究に関する相談)や助言についての適切さについては、5年間大きな変化は見られません。大学院生のニーズを大学が把握しているかということについては、「そう思わない」の割合が大幅に減少しています。

授業要綱は判り易いですか

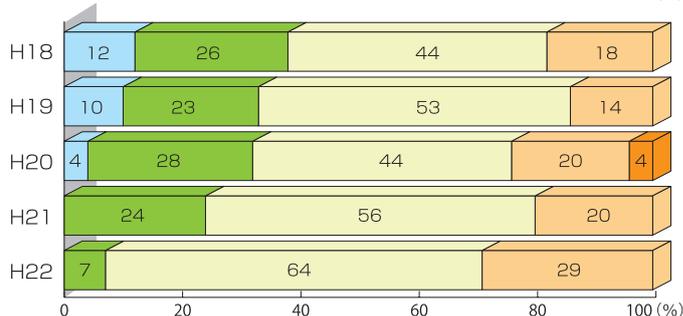


学習相談や助言などは適切に行われていると思いますか



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

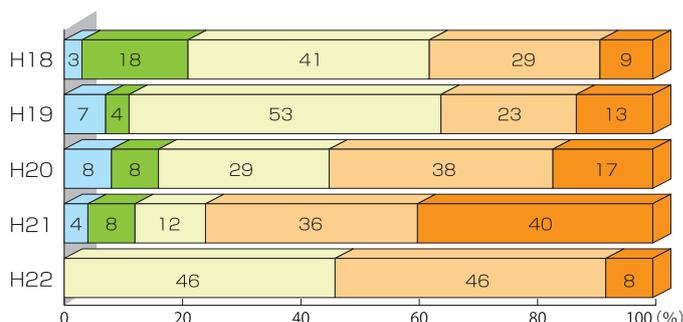
大学は皆さんのニーズを適切に理解していると思いますか



③ 研究指導に対する満足度

研究指導に対する満足度の低い学生の割合は大きく減りましたが、満足度の高い学生の割合もやや減少しています。今後はさらに研究指導に満足する大学院生の割合が増えるように努力をしていかなくてはなりません。

現在の研究指導に満足していますか



- 高い
- 少し高い
- 普通
- 少し低い
- 低い

大学自己評価部会だより

第26号 (平成24年3月)

アンケートの調査結果を報告します

平成19年～22年度の歯学科1年生および平成22年度の口腔保健学科1年生において各学科のアドミッションポリシーの周知度について比較しました。

■歯学科

1. 教育目標

- (1) 高いコミュニケーション能力を有し、歯科保健医療を通じて社会に貢献できる歯科医師を育成する。
- (2) 新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的歯科医師を育成する。
- (3) 歯科医療のリーダーとして活躍できる高度な専門性を持ち、探究心にあふれる歯科医師を育成する。

2. 求める学生像

- (1) 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、相手の気持ちを理解できる人。
- (2) 歯科医療および歯科医学に興味を持ち、自ら新しい課題に意欲的に取り組もうとする人。
- (3) 歯科医療および歯科医学について明確な目的意識を持ち、生涯を通じて学習意欲を持続できる人。
- (4) 歯科医師として国民の健康増進および国際社会に貢献しようという強い意欲を持った人。

■口腔保健学科

1. 教育目標

- (1) 高いコミュニケーション能力を有し、口腔保健活動を通じて健康増進に貢献できる人材を育成する。
- (2) 幅広いチーム医療が行える知識と技術を持ち、探求心にあふれる人材を育成する。
- (3) 口腔機能に関する専門的知識を持ち、保健・医療・福祉の分野で活躍できる人材を育成する。

2. 求める学生像

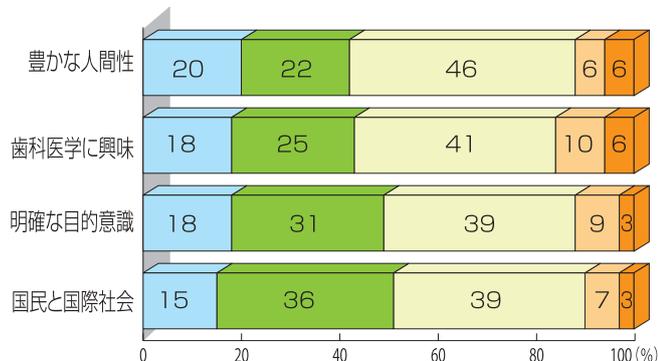
- (1) 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、相手の気持ちを理解できる人。
- (2) 保健・医療・福祉に対して意欲的に取り組み、新しい課題に意欲的にチャレンジする人。
- (3) 口腔保健に強い興味を持ち、生涯を通じて学習意欲を持続できる人。
- (4) 口腔保健活動を通じ、国民の健康増進および国際社会に貢献しようという強い意欲を持った人。



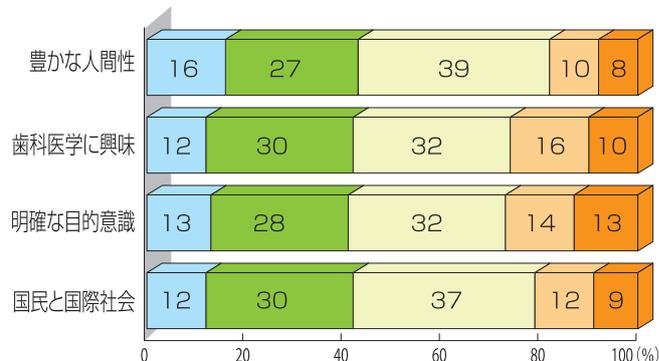
歯学科におけるアドミッションポリシー周知度

歯学科1年生における周知度は年々上昇しています。平成22年度では「全く知らない」と回答した人はほとんどいなくなりました。アドミッションポリシーは大学の特色を示すところであり、受験生に対する周知度のさらなる増加が求められます。

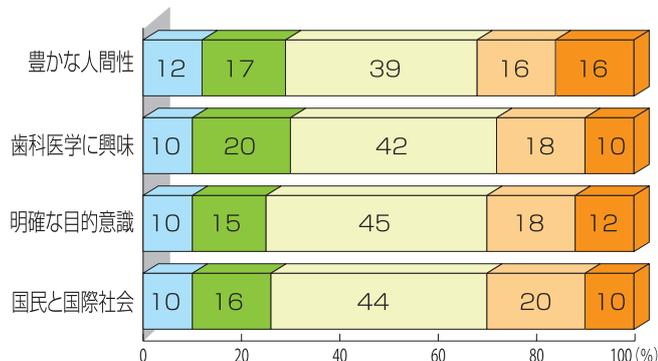
平成19年度



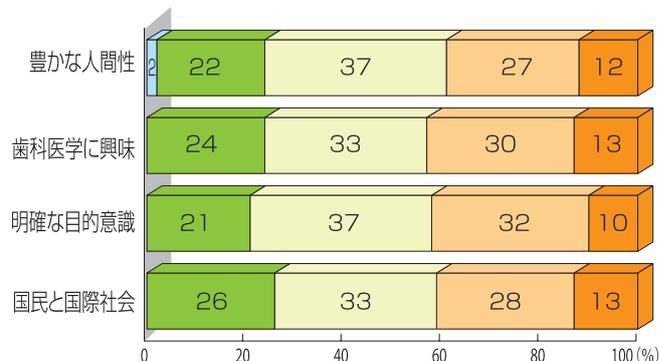
平成20年度



平成21年度



平成22年度



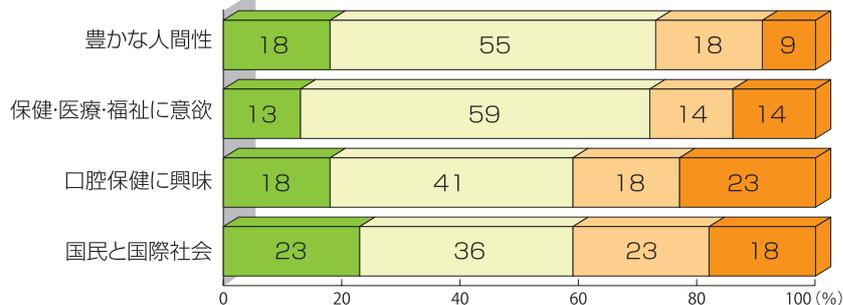
■ たいへん良く知っている
 ■ かなり知っている
 ■ まあまあ知っている
 ■ あまり知らない
 ■ 全く知らない

口腔保健学科におけるアドミッションポリシー周知度



口腔保健学科1年生における周知度は高く、「全く知らない」と回答した人はいませんでした。さらに「かなり知っている」「たいへん良く知っている」との回答が増加することを望みます。

平成22年度



■ たいへん良く知っている
 ■ かなり知っている
 ■ まあまあ知っている
 ■ あまり知らない
 ■ 全く知らない